



〈雜錄〉社會政策學會第十三回大會報告討議及講演要領

坂西, 由藏
大西, 猪之介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 28(2):285*-292

(Issue Date)

1920-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053157>



社會政策學會第十三回 大會報告討議及講演要 領

社會政策學會ハ去ル大正八年十二月二十日及
ビ二十一日ノ兩日ニ互リ第十三回大會ヲ中央大
學ニ於テ開催シタリ。其ノ報告討議及ビ講演ノ
要領左ノ如シ。

第一日(非公開) 十二月二十日午後一時四十分開會。
稻田周之助君ノ開會ノ辭ニ次ギ、左ノ報告(高野博士代讀)
アリ。

討議問題『勞働組合』

報告者 慶應義塾大學教授 小泉 信三 君

〔勞働組合運動ニ於ケル最新傾向トシテノ「ギ
ルド・ンシアリズム」〕 「ギルド・ンシアリズム」ノ
目的ハ勞働條件ノ改善ヨリモ産業ノ支配權掌握
ニ在リ、賃銀制度ノ改革ヨリモ其ノ撤廢ニ在
リ。シハ一八八〇年代ニ「ベンザミズム」ニ代
レル「フエビアニズム」ニ代リテ今日ノ英國ニ

盛ナル傾向ナレドモ、根本精神ハ佛及ビ米ニモ存シタリ。

〔主張ノ輪廓〕生産者ニヨル生産ノ支配ノ必要ヲ「サンデイカリズム」ヨリ學ビツ、モ、國家存續ノ必要ヲ認ムル主義也。其主張ニヨレバ勞働者ノ政治運動ハ事ノ本末ヲ顛倒セル上ニ運動ノ目標ヲモ誤レリ。特ニ産業ノ國市有ト公權ニヨル國民最低生活限度ノ保證ヲ要求スルガ如キハ全然消費者トシテノ要求ナリ。人ノ貧窮ヲ見テ其ノ隷屬ヲ忘レタルモノナリ。人間ノ勞働ヲ一個ノ商品トシテ見ル賃銀制度其モノガ一切ノ禍因タルヲ忘レタル論ナリ。故ニ勞働問題ノ根本的解決ノ爲ニハ勞働者ハ宜シク自ラ産業ノ經營ニ當リ雇主ト被傭者トノ區別ヲ廢セザル可カラズ。

然レドモ、勞働者ハ産業ヲ獨占シ意ノ儘ニ之ヲ支配シ得ルモノトスレバ、其ノ組合ガ全社會ヲ絞取スル生産者專制ヲ生ズル危險アリ。故ニ國家ヲ存續シ、之ニ消費者ノ利益ヲ代表セシ

メ、兩々相對立シテ協調ノ實ヲ學グシメントス。

右ノ如ク勞働者ノ實權ヲ増大スレバ彼等ハ怠惰保守トナリテ技術及ビ能率ノ進歩ヲ妨ゲザルカト云フニ、反對ニ、奴隸制度ヨリモ自由主義ガ人ノ能率ヲ増進シタルガ如ク自由トナレル勞働者ハ今日ノ勞働者ヨリモ能率ヲ増進スベシト豫言ス。此ノ點ハ彼等ノ樂天的理想家の傾向ノ表現ナリ。

〔實現ノ能否〕此ノ主義ノ實現ニハ英國ノ組合ガ Craft Union ヨリ Industrial Union ニ移ルヲ必要トス。而シテ一九一三年ノ鐵道従業員組合ノ如ク此ノ傾向ニ進ムモノモアレドモ、機關士運轉士組合ハ此ノ組合ニ加入セザルナリ。此ノ如キ熟練職工ノ個人主義ト階級的團結ノ要求トノ矛盾ハ諸方面ニ存シ、特ニ器械業ニ於テ然リトナス。

「ギルド・ソーシアリズム」ハ實際上幾何ノ意義ヲ有スルカハ疑問ナレドモ、少クトモ從來ノ産

業國有論ニテハ満足スベカラザルコトヲ教ヘタル消極的意義ヲ確保スルモノト評スベシ。

右終リテ左ノ二席ノ講演アリ。

勞働委員會ト勞働組合

慶應義塾大學教授 三邊 金藏 君

最近內務省ノ作成セル勞働委員會法案ハ五十人以上ノ職工ヲ有スル工場ニ於テ勞働者側及ビ資本家側ヨリ選出又ハ指名シタル代表者ヲ集メテ一個ノ諮問機關ヲ作ラントスルモノニシテ、企業者ト勞働者トノ意志ヲ疏通シ且ツ勞働者ヲ教育スル機關タルヲ得ベキ望モアレドモ、勞働者ノ勢力ノ代表セラル、コト少ク、企業者ノ勢力大ナルガ故ニ、特ニ有力ナル機關トシテ作用スルコト殆ンド不可能ナルベシ。假令ヒ然ラズトモ、此ノ會ノ議決ハ單ニ提議ヲナスニ止リ企業者ニ之ガ採用ヲ迫ルコト能ハズ。故ニ寧ロ勞働組合ヲ公認シ、之ヲ以テ勞働委員會ニ代ラシムルカ、又ハ少クトモ其ノ後援タラシムレバ、企業者ト勞働者トノ地位ヲ對等ニ近カラシ

ムルヲ得ベシ。固ヨリ內務省ノ素志ハ此ノ委員會ヲ以テ勞働組合ヲ暗ヨリ暗ニ葬ラントスルニアルガ如シ。

巴里國際勞働法制委員會ノ經過

鈴木 文治 君

從來商業政策上及ビ移民政策上ノ理由ヨリ勞働法制ハ國際的ニ協定セラル、方向ニ進ミシガ最近ニ至リ人道的色彩濃厚トナリ、更ニ各國ノ勞働組合及ビ社會黨ガ自己ノ勢力ヲ自覺シテ其ノ戰爭ニ盡セル努力ノ報酬ヲ要求セルニ依ツテ愈々此ノ傾向ヲ助長セリ。特ニ今次ノ平和會議ニ際シ、國際勞働法制委員會ガ急造セラレタルハ、巴里ニ於テ勞働者ガ平和會議ト同時ニ國際會議ヲ開キタランニハ、其ノ急進的態度ガ平和會議ヲモ壓迫スルニ至ル可キヲ恐レタルニヨル。

右委員會ハ五大國ヨリ二名ヅ、計十名、小國ヨリ五名總計十五名ノ委員ヨリ組織セラレ、二

月一日ヨリ三月廿四日閉會ニ至ル迄ニ三十五回

ノ會議ヲ重ネテ種々ノ事項ヲ決議シ、特ニ國際勞働事務局ト國際勞働會議トノ組織及ビ權能ヲ定メタリ。其ノ際日本政府ハ何等ノ準備ナク、全體ノ態度著シク保守退讓ナルノミナラズ、一面人種差別撤廢案ヲ主張シナガラ、他面勞働立法上ノ差別ヲ頑守スルガ如キ矛盾サヘ之ヲ敢テセリ。惟フニ勞働會議ハ勞働者ノ覺醒ヲ促スト共ニ、保守頑迷ノ論者ニ刺戟ヲ與ヘテ勞働條件ノ改善ヲ促スニ與ツテ力アルモノト評ス可シ。

元來勞働組合運動ノ勃興ニハ勞働者ノ自覺ヲ必要トス。而シテ日本ノ勞働者ハ今日尙歐米式ニハ自覺シ居ラザレドモ、勞働問題ヲ論ズル力ナキ程無能力ナルモノニアラズ。勿論過去ニ於ケル過度ノ抑壓ノ爲ニ猜疑心・虛榮心・依賴心・俠客的氣分等多シト雖モ、尙十分信頼スルニ足ル分子アリ。故ニ目下ノ急務ハ堅實ナル勞働組合ノ發達助長ニシテ、モシ單純ナル高壓ニ專ラナルニ於テハ團體的運動ノ能力ヲ失フ勞働者ハ或

ハ亂軍ヲ現出スルニ至ラン。

會員討論

同夜六時半ヨリ十時半マデ大要左ノ討論アリ。

(一) 桑田熊藏博士 一派ノ勞働運動ノ赴ク無政府主義ニ於

テモ國家ハアル點迄認メラル、必要ナキカ。

森戸辰男君 モシ國家トハ團體ナリト見レバ當レリ。且自

由ニスツテ自由ニ出デ得ル權力ト然ラザルコト今日ノ如キ權力トハ大ニ異レリ。

松村光三君 露西亞ノ如キ少數專制ハ如何。

森戸君 先ツ市民派新聞ノ報道ニ基ヅキ露西亞ニ判斷スベカラズ。次ニ單純ナル暴壓ノミニテハ永ク繼續シテ掌握シ得ルモノニアラズ。更ニ今日ハ過渡ノ時代ナレバ、若干弊害アレバトテ、資本制ノ如ク永續シテ確固タル弊害ト同視スベカラズ。

(二) 桑田博士 今日ノ日本政府ハ勞働運動ニ對シ漸次左ヘ動

キツ、アリ。

堀光龜君 余ニハ逆ニ煽動ヲ壓迫スルト云フ風ナル方向ニ

進ミツ、アリト見ユ。

鈴木君 政府ニ統一ナシ。農商務省ハ進歩的、内務省ハ保守

的ナリ。一面ニ官僚系ノ勞働組合運動アリ、他面暴壓の傾向アリ。

桑田博士 其ノ壓迫ハ過激派ヲ恐レテノ事也。

(三) 桑田博士 勞働委員會法案ハ今日未ダ批評ノ値ナキ未定稿ナルガ、勞働者ノ立場トシテハ之ヲ如何ニ判ス可キカ。

鈴木君 勞働者懷柔ノ手段トナリテ勞働組合ノ發達ヲ妨グルガ故ニ不可ナリ。

(四) 桑田博士 日本ニ於テハ如何ナル勞働組合法ヲ要求ス可キカ。

鈴木君 取締の組合法ハ眞平ナリ。但今日如何ハシキ組合多クレバ、之ヲ正當ニ取締ル必要アル可シ。組合法ノ制定ハ組合ヲ認メタルコトヲ意味シ、勞働者ノ自覺ヲ強メ、資本家ヲ覺醒セシム。組合ニハ法人格ヲ認メ、選舉上ノ權利ヲ認メ、又必ズ集合協約ヲ認ム可ク、三分ノ二又ハ四分ノ三以上ノ同意アレバ Closed shop ノ制ヲ許ス、又 Craft Union ヨリモ Industrial Union ナ認メラレタシ。組合ノ認否ハ官機ニヨリ本人ノ思想ニ立入ル事ナク、一定ノ形式條件ヲ備フレバ、之ヲ認ムル準則主義ヲ採ル可シ。

森戸君 今日ノ政府及議會ヲ基トスレバ寧ロ勞働組合法ナキガ宜シカラズヤ。勿論治安警察法第十七條ノ如キハ組合非公認ノ法ナレバ之ハ廢スル必要アレドモ、ソレ以上ニ立法ヲ要求スルハ果シテ如何アル可キカ。

高野博士 會司法部内ノ傾向ニ注意セザル可ラズ。組合ニ法人格ヲ認メシムルガ如キ特ニ危ブム可シ。

鈴木君 余ノ希望ハ似而非組合ノ絶滅ニ在リ。自由競争ニヨ

ル正當ノ淘汰ヲ考ヘテ自由放任論ニ賛スルモ亦一個ノ見地ナル可シ。

(五) 堀君 今日組合ヲ認ムレバ能率ヲ引下ゲ國運ノ振興ニ害アル危險ナキカ。

松村君 英國ノ勞働政策ハ印度ヲ目的トスル敵本の利己主義ニシテ、人種問題トハ關係ナシ。

鈴木君 一時的ニ生産能率ノ減退ヲ見ルガ如キ憂アラシモ、ソハ今日ノ資本制度ノ下ニ於テハ免カレ難キ弊害ナリ。又若干能率ヲ減ズルトシテモ、我等ハ少シハ文化ト云フ立場ヨリモ考ヘザル可ラズ。殊ニ世ニ多クノ遊民アル際何故勞働者ノミカ能率維持ノ責任ヲ負ハザルベカラザルヤ。勞働者ハ既ニ十分被取サレ居ルナリ。英國ニ就イテハ余ハ左程ニ利己的ト見ルヲ得ズ。自己ノ火ヲ消サントハ欲シタル可シ。シレナ他國ニ抑及サント迄ハ考ヘザリシナラン。

高野博士 動機ハ利己的ナル立法ナルニセヨ、我等ハ之ヲ人道的ニ解釋運用シテ妨ナキニアラズヤ。

第二日(公開講演會) 十二月二十一日午後零時四十五分開會、左ノ四席ノ講演アリ。

都市政治ノ民衆化

早稻田大學教授 高橋清吾君

今日ノ政治思想ハ權力ヲ否定シテ合理的綜合主義ヲ要求スル方向ニ走リツ、アレドモ、是ハ尙理想ニシテ實際ハ少數政治ナリ。唯 public service 又ハ public consent ト云フ事ニテ之ヲ是認セント務ム。然ルニ東洋ニハ無責任ナル少數政治家ノ跋邑アルト共ニ、有能政治家ニ十分ナル活動ノ餘地ヲ與ヘザル弊アリ。又近世都市ノ事業ハ殆ンド皆専門家ノ仕事ナルガ、其ノ專門家及ビ之ヲ監督スベキ政治家ハ共ニ動モスレバ官僚のナラントスル傾アリ。故ニ民衆ヲシテ出來得ル限り政治ニ參與セシメテ其ノ責任觀念ヲ強カラシムルヲ必要トナス。

大戰後ノ勞働運動

法學博士 添田壽一君

歐洲大戰ノ裏面ニハ經濟的帝國主義ノ色彩甚ダ濃厚ナレドモ、其ノ進行ニツレテ民衆ノ協力ヲ要求スルト共ニ勞働者ノ勢力及其ノ自覺増長シ、彼等ハ暴利ヲ恣ニスル人間ニ接シテ憤慨

シ、其ノ不滿ハ生計難・就職難ニ煽ラレ愈々旺トナリ來レリ。勿論國ノ異ルニヨリテ勞働問題ノ狀況モ異レドモ、殆ンド一切ノ國ニ過激派ニ同情スル傾向アルコトハ、各國勞働者ガ通ジテ露國出兵ニ反對セルヲ以テモ其ノ一斑ヲ察ス可シ。而シテ勞働問題ノ中心ハ生計問題ニ在リトスレバ、此ノ生計困難トナルニ伴ヒ日本ニモ勞働問題愈々盛トナルヲ察ス可ク、之ニ順應スル爲ニハ(一)一般的ニアラズシテ各種業務ヲ中心トスル勞働組合法ノ制定(二)治安警察法第十七條ノ撤廢(三)勞資協議會ノ開設(四)勞働保險法ノ制定(五)勞働者ノ設立(六)普通選舉制定ノ採用等ノ諸策ヲトリ、社會連帶ノ大理想ニヨリ他國ノ誤ヲ重ネズシテ問題ヲ解決スルニ努ム可キモノナリ。

日本銀行改造ノ社會的意義

東京帝國大學助教授 大内兵衛君

通ジテ人類社會ノ進步革命ハ、宗教改革及ビ佛蘭西革命ノ示スガ如ク、某階級ノ獨占セル特

權ヲ正當ナル人ノ手ニ恢復スルニ存ス。今中央銀行ノ職分即チ(一)適當ナル通貨ヲ適當ナル分量ニ於テ供給スル事(二)金融界ノ中樞機關トシテ銀行ノ銀行タル職分ヲ盡ス事(三)國庫ノ收支ヲ司ル事等ハ總テ公共的職分ニシテ、政治的ヨリモ經濟的、經濟的ヨリモ社會的ナル性質ヲ帶ブ。然ルニ日本銀行ハ其全株式ノ三分ノ二ヲ宮内省其他ノ富豪ニ獨占セシメ、其ノ幹部ハ特殊ノ階級ヲ代表シテ國民ヲ代表スル事ナク、配當ハ年々一割三分ノ高率ヲ採テ營業方針ハ甚ダシク保守退嬰ニ傾キ、法規ヲ侵シテ在外正貨ヲ運用シテ巨利ヲ貪リ、シカモ物價問題ニ對シテハ極メテ冷淡ナル態度ヲ持ス。故ニ我等ハ三十年來之ヲ獨占セル階級ヨリ國民ノ手ニ收メ、獨乙又ハ或ハ米國式ニ改メ、或ハ資本ヲ官有トシテ經營ハ何等カノ民的委員會ニ委スルヲ期ス可シ。即チ日本銀行ノ社會化ヲ完成スベシ。

勞働組合・階級戰爭(併セテ河上博士ニ答フ)

東京高等商業學校教授法學博士 福田 德三 君

ベルンスタイン曰ク「勞働階級ノ神聖ナル倫理化ハ勞働運動ヲ通ジテノミ行ハル可ク、之ヲ迂回シテハ行ハルベカラズ」ト。意味ハ今日ノ勞働契約關係ヲ神聖トスル爲ニハ、勞働組合ニヨリ勞働者ヲ民主化スルヲ要スト云フニ存ス。賃銀制度其モノガ惡キニアラズ、其ノ締結ニ際シ存スル缺陷ヲ組合ニヨリ是正セヨト云フニ在リ。

カウツキーハ曰ク「社會民主々義ノ強味ハ其ノ學問的方法ニ在リ。此ノ方法ハ社會主義思想ノ頂點ニシテ、之ニヨリテ得ラル、結果ハ之ト比スレバ願ルニ足ラズ」ト。カウツキーガ斯迄ニ賞讃セシ唯物史觀ノ本領ハ社會進化ノ事實ヲ認メテ、其間ニ作用スル進化ノ理法ヲ發見シ、之ニ反スル理想空想ハ捨テ去ラントスルモノナリ。此ノ社會ノ進化ハ無限ニ行ハル、モノナルガ故ニ、Endziel 即チ Zweck アル事ナシ。唯此ノ進化ヲ現實ニスル爲ノ Ziel トシテノ社會革命ヲ主張スルガ社會民主運動ニシテ、其ノ

Ziel = 達スレバ、社會民主々義ハ終滅シ新ナル Ziel = 對スル新ナル運動發生ス。此ノ種社會革命ヲ行フ爲ニハ舊來ノ勞働組合ハ妨害トナル事多ケレバ、社會主義者ハ之ヲ排斥シ、階級戰爭ノ精神ヲ吹キ込ミタル Industrial or Labour Union ヲ之ニ代ヘテ勃興セシメント欲スルナリ。

社會ノ進化ト勞働運動トハ共ニ自ラ發生スルモノナレドモ、若シ之ヲ放任スレバ此ノ二傾向背馳スルヤモ計リ難シ。其ノ際此ニ二過程ヲ結合シテ同一方向ニ赴ク様ニスル手段ガ階級戰爭思想ノ鼓吹ナリ。即チ一切ノ勞働運動ヲ驅ツテ社會進化ノ Endziel タル社會革命ニ向ハシメントスルガ社會民主黨ノ使命ナリ。カク階級戰爭ノ精神ヲ鼓吹スルハ空想派社會主義ヲ去ツテマルクスノ科學的社會的主義ニ移ルト共ニ生ゼル根本的特徴ニシテ、之ヲ否認シテ唯民主々義ヲ説クコトベルンスタインノ如クンバ、最早眞ノ意味ニオケル社會主義者ヲ以テ目ス可カラズ。

近クハ河上博士又之ニ先ツテハ室伏高信君ノ余ニ對スル批評ハエルフルト綱領ニ有スル「全人類ノ解放」テフ一句ニ基ク。然レドモ本來右ノ綱領ハ階級戰爭ヲ主張スル爲ニ草セラレタルモノニシテ、全人類ノ解放トハ、云ハバ一切ノ進歩セル運動ニ共通セル理想ニ過ギズ。唯之ニ達スル手段道程ガ階級戰爭ナリト見タル點ニ社會民主々義獨特ノ意味存在スルコトヲ看取セザルベカラズ。而シテ余ガ對抗セヨト說イテ撲滅セヨト說カザルハ、佛教ヲシテ基督教ニ對抗セシメヨト說クガ如シ。正シキモノハ自ラ正シト云ヘバ足り、他ヲ撲滅スル必要ナシ。

「ギルド」社會主義ハマルクスノ排斥セル空想的分子ニ富ミ、歴史的研究ヲ缺ケル非科學的產物ナリ。其ノ作ラントスル組合モ階級戰爭ノ精神ヲ以テ終始スル組合ニシテ、予ノ見解ニヨレバ、カ、ル組合ハ健全ナル勞働運動ヲ助長ス可キ機關ヲ以テ目ス可カラズ。

次ニ稻田周之助君ノ閉會ノ辭アリ五時五十分閉會セリ。

(坂西由藏、大西猪之介)